

◆アビッドテクノロジー：アジア太平洋地域にて、Avid NEXIS メディア共有ストレージの導入拡大

グローバルなメディア組織、企業ユーザー、クリエイティブ・プロフェッショナルに、メディア・アセットの制作、配信、収益化技術を提供するアビッドテクノロジー株式会社（本社：東京都港区）は、アジア太平洋地域において Avid NEXIS の導入が進んでいることを発表した。Avid NEXIS は、メディアの保存と管理のために設計されたソフトウェア定義型ストレージ・プラットフォームで、MediaCentral® Platform 上で稼働する。ダイナミック仮想化およびメディアに特化したコラボレーションが可能のため、顧客の制作と効率性を向上させる。

現代のリアリティ番組制作においては、撮影素材が膨大な量に増加する傾向にあり、大量の素材データの効率的な保管と共有が必要不可欠。オーストラリアの主要なポストプロダクション・サービス・プロバイダである Cutting Edge は、リアリティ TV 番組および長編映画の制作のために、堅牢なストレージ能力と拡張性を提供する Avid NEXIS | E4 を導入した。さらに、オーストラリアのシドニーに本社を構える Beyond Productions は、『Selling Houses Australia』などのリアリティ TV 番組シリーズ、サイエンス番組、子供向けコンテンツの制作に至るまで、Avid NEXIS | E4 を活用している。

中国の ZheJiang TV では、ポストプロダクションおよび映画制作向けに、70 もの Avid NEXIS | E2 システムを導入しており、アジア太平洋地域で最大規模の Avid NEXIS ユーザーの 1 社である。他にも大人気のドラマ『Feather Flies To The Sky』や、今年後半に放送予定の『The Voice』でも、Avid NEXIS システムが活用される予定。

ニュージーランドにある映画 & テレビ番組制作スクール（フィティレイア・ポリテクニク専門学校の一部）のプライベート・トレーニング授業では、学生がプロジェクトを Avid NEXIS | E2 に保存している。この学校では、20・30 名の業界プロフェッショナル達が映画撮影技術教える授業を行っており、Avid NEXIS 共有ストレージが、学生と教授の間での協調ワークフローに役立っている。

人気スポーツの生中継が見放題の『スポナビライブ』を運用する日本のコンテンツプロバイダー、スポーツライブエンターテインメント株式会社は、日本で初めてメディア共有ストレージ「Avid NEXIS | E4」を導入した。「Avid NEXIS | E4」および、「Avid Media Composer」は、野球、サッカー、大相撲など、様々なライブ映像のスピーディーな編集を可能にし、今日のサービスを支える重要な一部として大きな役割を担っている。ソフトバンク株式会社とヤフー株式会社が共同運営する『スポナビライブ』サービスは、この先進的な取り組みによって、年代、性別に関わらず、幅広い方々へ高品質なサービスの提供を実現している。

アジア太平洋地域以外でも、主要なアメリカテレビ放送ネットワークをはじめ、アメリカバスケットボールチームのマイアミ・ヒート、カナダの放送局 CBC、末日聖徒イエス・キリスト協会（モルモン教）、イギリスの独立系 TV 番組制作会社 Spun Gold、イギリスのフル・サービス・ポストプロダクションの The Edit、イギリス・ベルファストにあるプロダクション会社の Paper Owl Films、フラン

ス・テレビネットワーク La Chaine Parlementaire、フランス・スポーツニュース・チャンネルの Infosport+、ドイツの放送局 CBC、ドイツ国防省、イタリアのデジタル衛星 TV プラットフォーム Sky Italia、アラビア TV チャンネル Discovery Networks MENA、カタール・ドーハに本社を置く衛星テレビ局 Al Jazeera などにも、Avid NEXIS の導入が進んでいる。

Avid のシニア・バイスプレジデント兼ワールドワイド・セールス部門のトム・コーディネーターは次のように述べる。「Avid NEXIS はコンテンツの爆発的な容量増加に対応するとともに、より堅牢なストレージ・インフラストラクチャ、信頼性、コラボレーションを可能にします。その導入は全世界で進んでおり、Avid NEXIS ソフトウェア定義型ストレージ・プラットフォームが、ポストプロダクション組織および放送局業界に、制作能力と効率性の向上というメリットを提供しています。」

Avid NEXIS が備えるダイナミックな仮想化能力により、メディア企業は、プロジェクトの制作途中でもワークフローを中断することなくストレージ容量を調整することができる。ユーザーは、現在のニーズに合わせてコンポーネントを選び、ニーズの変化に応じて容易に拡張できる。Avid NEXIS は、システムを動的に調整して、常に優先度の高いワークフローに必要なレベルの容量、性能、データ保護を確保できる唯一のスケール・アウト型ストレージ・ソリューションである。ユーザーは、重要度の低いワークフローを抑制する一方で、重要なプロジェクトに最大限の性能を割り当てることができます。この機能性により、制作チームはワークフローのどの段階においても、プロジェクトのニーズに合わせて性能や保護レベルを調整し、変化に素早く対応することができます。

【問い合わせ先】アビッドテクノロジー株式会社

TEL:03-3505-7937 FAX:03-3505-7938

◆ブラックマジックデザイン：URSA Mini 4.6K および Micro Cinema Camera で Mobike の「If Mobike Came to My City」プロモーションを撮影

上海に拠点を置く Luminary Visuals Studio が、「If Mobike Came to My City」のプロモーションビデオを Blackmagic URSA Mini 4.6K および Micro Cinema Camera を使って撮影したことを発表した。このプロモーションビデオは、6 月末の英国での Mobike 立ち上げに関するマーケティング活動に使用されている。Mobike は、中国最大手の「ドックレス」自転車シェアリングを展開する企業。今回の新しいプロモーションでは、上海で暮らす様々な国籍の「モバイカー」たちが、Mobike を使用する理由や、彼らのホームタウンに Mobike が進出したらどうなるかなどを語る。

「Mobike のプロジェクトは急を要するもので、着想から完成までにかける時間はわずか 12 日間でした。Mobike は、私たちが厳しい締め切りのプロジェクトでも品質に妥協しないことを知っていたので、私たちにこのプロジェクトの依頼がきました。」Luminary Visuals のクリエイティブ・ディレクター、アレッシオ・アヴェツァーノ (Alessio Avezzano) 氏は語る。

同氏は続ける。「Mobike 側は、上海の複数の穴場的なスポットで撮影したいと考えていました。しかし、規模が大きくなると撮影に

ストップがかかることがあるため、これは簡単なことではありません。」

スタッフの人数を可能な限り少なくするため、アヴェッツァーノ氏のチームは、所有する Blackmagic URSA Mini 4.6K と Micro Cinema Camera を使用することを決めた。「大型のカメラをレンタルした場合、アシスタントを 2 人増やす必要があったでしょう。そうすると規模が大きくなり、時間もかかります。そして今回は、短時間で上海中の複数のロケーションで撮影する必要があったのです。」アヴェッツァーノ氏は説明する。「この 2 台の Blackmagic カメラはどちらも小型なので、3 人のクルーでいけました。3 人とは、監督 / 撮影監督 / カメラマンを担当した私、そしてアシスタントディレクター / カメラを担当した私の弟、そしてサウンド収録の担当者です。少人数のクルーでも、Blackmagic カメラのおかげでシネマライクな映像を得ることができました。」

同プロモーションビデオの大部分は URSA Mini 4.6K で撮影されたが、映像に遊び心を加えるため、アヴェッツァーノ氏は出演者が Mobike に乗っているシーンを電動自転車から撮ることにした。「ここで役立ったのが Micro Cinema Camera です。Micro Cinema Camera は非常にコンパクトなので、ジンバルやスライダー用のリグも小型ですみます。もう 1 台の自転車からジンバルで撮影したのですが、大きな注目を集めることなく、出演者たちの自然な動きを撮影できました。」

モバイカーたちが次々と Mobike を借りていくオープニングのタイムラプスにも Micro Cinema Camera が使用された。また、Micro Cinema Camera と共に、Blackmagic Video Assist がビューファインダー / モニターとして使用された。

URSA Mini 4.6K カメラはすべてのフッターを 2K の ProRes 444 で撮影し、Micro Cinema Camera は 1080p RAW で撮影した。「Micro Cinema Camera の RAW フッターのサイズは扱いやすいですね。DaVinci Resolve で調整したら、URSA Mini 4.6K のフッターと完璧にマッチしました。」アヴェッツァーノ氏は最後に結んだ。同プロモーションビデオのカラーグレーディングは、上海に拠点を置く 8G Studio により、DaVinci Resolve Studio および DaVinci Resolve Advanced Panel を使用して行われた。

◆ブラックマジックデザイン：Sky Atlantic のテレビドラマ「Riviera」のタイトルシーケンスの作成に Fusion Studio を使用

ロンドンに拠点を置くビジュアルエフェクスタジオ、Lexhag が、「Riviera」のメインタイトル・シーケンスの作成に Fusion Studio を使用したことを発表した。「Riviera」は、Sky Atlantic の新しいドラマシリーズ。ジュリア・スタイルズ (Julia Stiles) 演じる億万長者の夫人が、裕福な生活の裏にある闇を発見していく。ビジュアルエフェクト監督、アレクシス・ハガー (Alexis Haggag) 氏が率いる Lexhag チームは、同番組の華やかな魅力を、鮮やかな万華鏡効果でキャプチャーすることで、シーケンスのピッチを作成した。Lexhag チームは、Fusion Studio を使用し、番組の映像をソースに使う万華鏡映像を作成、アニメートした。これらの映像にはストーリー展開に関するヒントが散りばめられており、ドラマが展開するにつれ視聴者により多くの事が明かされるようになっている。

「同番組のメインタイトル・デザインを担当している The Morrison Studio から、シーケンスを作成して欲しいと依頼を受けました。彼らとは長い付き合いがあります。」とハガー氏は語る。「彼らはシーケンスの各セクション用のスタイルフレームの構築に取り組んでくれました。」ハガー氏は続ける。「私たちはこれらのスタイルフレームをベースにして、Fusion で直接ショットを作成しました。そして Fusion のプラグイン、Krokodove で万華鏡エフェクトとアニメーションを適用しました。作業はすべて 4K UHD 16-bit です。番組の映像から万華鏡効果に使用するのに適切なプレートを見つけることが大きな課題でした。俳優の顔などは見え方が変わってしまうので特に難しかったです。Fusionのおかげでアニメーションプレートを迅速に作成できたので、クライアントと一緒にスイートでインタラクティブに修正することができました。これで大幅に時間を節約できました。」

シーケンス作業の終了後、レンダーした各ショットはサードパーティ製アプリケーションのタイムラインに移された。そこでシーケンスのオンライン編集に使用され、タイトルカードを配置して仕上げられた。

「今回のプロジェクトでは、ワークフローでの Fusion の採用を決める前にいくつか別のオプションを試したのですが、Fusion は私たちが目指す映像を作成するのに、最もスピーディかつ最も柔軟に使用できるツールでした。Fusion は 16-bit 浮動小数点の 4K Ultra HD を簡単に扱えます。作業を止めてレンダリングやフリップブック効果にかかる時間を無駄にすることはないので、クリエイティブな処理をリアルタイムで行えます。ワークフローがこれまでにないほど簡潔になり、驚くほど優れた結果が得られました。」ハガー氏は最後に結んだ。

【問い合わせ先】ブラックマジックデザイン

<https://www.blackmagicdesign.com/jp>

◆ソニー：業界最高の面記録密度 201Gbit/inch² (平方インチ) を達成した磁気テープストレージ技術を開発

ソニーは、スイス・チューリッヒにある IBM チューリッヒ研究所 (IBM Research - Zurich) と共同で、テープストレージメディアとして業界最高の面記録密度 201Gbit/inch² (平方インチ) を達成した磁気テープストレージ技術を開発した。これは、ソニーが新たに開発した潤滑剤等を採用した磁気テープ技術に加え、IBM チューリッヒ研究所が手掛けた新開発の記録 / 再生用ヘッドと先進的なサーボ制御技術、革新的な信号処理アルゴリズム等を組み合わせることにより実現したもの。面記録密度 201Gbit/inch² (平方インチ) は、従来の磁気テープストレージメディア (9.6Gbit/inch² (平方インチ)) の約 20 倍となります。これは、従来技術によるデータカートリッジ 1 巻あたり 15 テラバイト (TB) の記録容量に対し、約 330TB (※ 3) の大容量データ記録を可能とする技術。

なお本成果は、2017 年 8 月 2 日 (水) からつくば市で開催されている The 28th Magnetic Recording Conference (TMRC 2017、つくば国際会議場) において、IBM チューリッヒ研究所との連名で発表された。

◆ソニー：欧州で権威のある「EISA アワード」を7部門で受賞

ソニーのレンズ交換式デジタル一眼カメラ『α 9』と『α 6500』、デジタルスチルカメラ サイバースhoot®『RX100 V』、『RX10 III』、35mm フルサイズ対応 α TM[E マウント]用交換レンズ『FE 100mm F2.8 STF GM OSS』、『FE 70-200mm F2.8 GM OSS』、4K 液晶テレビ ブラビア®『KD-65ZD9』が、欧州で権威のある「EISA アワード 2017-2018」の各賞を受賞しました。『α 9』が受賞した「EISA CAMERA 2017-2018」は、対象となる製品の中から最も優れているカメラに授与される賞として今回新たに設置された。

■ EISA CAMERA 2017-2018

受賞商品：レンズ交換式デジタル一眼カメラ『α 9』

受賞理由：革新的な高速画像処理システム

で、被写体の俊敏な動きなど今まで捉えきれなかった瞬間を高速で捉え続ける本機は、従来のデジタル一眼レフカメラを凌駕する画期的なミラーレスカメラであると、高く評価された。有効約 2420 万画素フルサイズ積層型 CMOS イメージセンサー Exmor



RSTMを搭載する本機は、AF/AE 追従 20 コマ/秒のブラックアウトフリー連続※2 撮影機能や、画像領域の約 93% をカバーする 693 点の全面位相差センサー、無音・無振動の最高 1/32000 秒の電子式アンチディストーションシャッターなどを、小型・軽量ボディに凝縮している。また、静止画・動画ともに有効な最高 5.0 段のボディ内 5 軸手ブレ補正機構や、画素加算のない全画素読み出しによる高解像 4K(QFHD:3840 × 2160) 動画※5 ※6 記録性能も搭載している。

■ EISA PROSUMER COMPACT SYSTEM CAMERA 2017-2018

受賞商品：レンズ交換式デジタル一眼カメラ『α 6500』

受賞理由：高性能 AF と光学式 5 軸手ブレ補正機能を小型ボディに凝縮した本機は、オールラウンドで活躍するミラーレス一眼カメラとして、高画質性能・動画機能・操作性などを高いレベルで実現している点が高く評価された。



本機は、425 点全面位相差検出 AF センサーと 169 点のコントラスト検出 AF センサーを画面のほぼ全域に配置し、広範囲・高密度に測距点を配置することで、被写体をより高精度に捉えます。さらに、タッチパネルによる直感的で即時性の高いフォーカス操作を実現。また、手ブレ補正機能をボディに内蔵したことで、手ブレ補正非搭載の E マウントレンズはもちろん、マウントアダプターを介して使用する A マウントレンズ※7 装着時でも手ブレを補正します。最高 11 コマ/秒(連続撮影モード「Hi+」時)の高速連写性能も、受賞理由のひとつにあげられている。

■ EISA COMPACT CAMERA 2017-2018

受賞商品：デジタルスチルカメラ サイバースhoot®『RX100 V』

受賞理由：大型(1.0 型)CMOS イメージセンサーを搭載する本機は、ポケットに収まる小型サイズながら、0.05 秒の高速 AF と AF/AE

追従最高 24 コマ/秒の高速連写性能を

実現するプレミアムコンパクトカメラとして総合的に評価された。画像処理エンジン BIONZ XTM とそれをサポートする新開発フロントエンド LSI は、画像処理の高速化にも貢献。最高 24 コマ/秒の AF/AE 追従高速連写時でも大容量画像データを高速に処理します。最高 960fps のスーパースローモーション機能や高解像 4K (QFHD:3840 × 2160) 動画記録性能に加えて、明るく見やすい収納式有機 EL ファインダーも搭載。街中でのスナップ写真や一瞬の表情を切り取るポートレートの撮影などの幅広いシーンにおいて、狙った被写体の一瞬の動きを高精度に捉える点が高く評価されている。



■ EISA SUPERZOOM CAMERA 2017-2018

受賞商品：デジタルスチルカメラ サイバースhoot®『RX10 III』

受賞理由：大型(1.0 型)CMOS イメージ

センサーを搭載する本機は、光学 25 倍 ZEISS® バリオ・ゾナーT* 24-600mm F2.4-4 大口径・高倍率ズームレンズを備え、自然や野生動物など広角から超望遠まで幅



広いシーンの高画質撮影を 1 台で実現する点が高く評価された。計 8 枚の ED ガラス等を使用した新開発のレンズに加えて、ソニー独自の光学式手ブレ補正機能も採用し、ズーム全域で高コントラストかつシャープな画質を実現。さらにシャッター音を消せるサイレント撮影が可能なため、コンサートや野生動物の撮影時でも、ありのままの姿の撮影を楽しめる。最高 960fps のスーパースローモーション機能や高解像 4K(QFHD:3840 × 2160) 動画記録にも対応するなど、プロの映像制作のニーズにも応えている点も受賞理由のひとつにあげられている。

■ EISA COMPACT SYSTEM CAMERA LENS 2017-2018

受賞商品：35mm フルサイズ対応 α [E マウント] 用交換レンズ『FE 100mm F2.8 STF GM OSS』

受賞理由：プレミアムレンズシリーズの G マスターとして、高い解像性能はもちろん、STF レンズならではの印象的なぼけ描写にもこだわり、花、ポートレートやファッション、ウェディングの撮影などに適した中望



遠単焦点レンズであると、高く評価された。静止画・動画を問わず、静粛で高速・高精度なピント合わせをするダイレクトドライブ SSM を搭載するほか、マクロ切り替えリングによる近接撮影(最短撮影距離 0.57m、最大撮影倍率 0.25 倍)も可能。また、レンズ内蔵の光学式手ブレ補正機構により、暗所での撮影でもブレを最小化するなど、G マスターTM のコンセプトを高い基準で保持していると評価されている。

■ EISA PROFESSIONAL COMPACT SYSTEM CAMERA LENS 2017-2018

受賞商品：35mm フルサイズ対応 α [E マウント] 用交換レンズ『FE 70-200mm F2.8 GM OSS』

受賞理由：開放 F 値 2.8 で 70mm から 200mm の使用頻度の高

いズーム域をカバーする望遠ズームレンズで、スポーツやアクション、自然風景やポートレート撮影にも適していると評価された。最先端の光学技術を投入し、優れた描写性能だけでなくAF、手ブレ補正などF2.8望遠ズーム



に求められる機能を高いレベルで実現。諸収差の補正により、絞り開放時でも画面の隅々まで高解像でシャープに描写する。加えて、近接撮影での解像力を向上するフローティング（近距離収差補正）機構を採用し、最短撮影距離 0.96m、最大撮影倍率 0.25 倍を実現している。11枚羽根による電磁絞りも、自然で美しいぼけ表現に貢献。『α9』との組み合わせでさらに発揮される高いAF性能や、防塵・防滴にも配慮して設計された点も評価されている。

■ EISA HOME THEATRE TV 2017-2018

受賞商品：4K 液晶テレビ ブラビア『KD-65ZD9』

受賞理由：ソニー独自の画質技術と長年培ってきた映像のノウハウを駆使し、昨今、映像業界で注目されているHDR(ハイダイナミックレンジ)コンテンツの魅力をお客様にお届けするモデルとして、高く評価された。液晶パネル背面に高密度に敷き詰めた多数のLEDを一つ一つ独立して駆動させるバックライト技術 Backlight Master Drive™(バックライトマスタードライブ)を搭載。また、最新の画質技術を持つ4K高画質プロセッサ X1™ Extreme(エクスワンエクストリーム)を搭載。X1 Extremeは、従来比約1.4倍の画像処理速度を持ち、さまざまな映像をHDR相当にアップコンバートする「HDRリマスター」などにより、これまでにない高輝度、高コントラストを実現しました。鮮烈な光の輝きや引き締まった深い黒が緻密に表現され、あたたかも目の前に存在するかのようリアリティを表現する。



◆ソニー：バーチャルアナウンサーがテレビ番組などの原稿を自動で読み上げる「アバターエージェントサービス」用ツールの提供を開始

ソニーは、テレビ番組などの原稿を音声とCGに変換し、バーチャルアナウンサー「沢村 碧（さわむら みどり）」に自動で読み上げさせることができる「アバターエージェントサービス」用ツールの提供を開始した。「アバターエージェントサービス」用ツールは、文字情報として入力された原稿を専用の音声合成エンジンによって自然な発話に変換し、CGアニメーションキャラクターであるバーチャルアナウンサーに読み上げさせることができる、情報コンテンツ提供に特化したアプリケーション。発話とアニメーションを高精度に連動させる技術により、バーチャルアナウンサーは自然な表情や動きで原稿を読み上げる。本ツールはソニーが開発したもので、情報コンテンツ用の動画と音声を短時間に作成することが可能。

ソニーは2016年8月に実施したソニービジョン渋谷におけるバーチャルアナウンサーの街頭実証実験を皮切りに、その後も複数回にわたる実証実験を実施した。有用性や自動読み上げによる情報の伝

わり方などの検証の結果、今回正式に本ツールの提供開始を決定した。実証実験を通じた検証および改善の結果、正式版には以下の機能を追加している。

- ・読み上げ内容の字幕表示
- ・バーチャルアナウンサーのしぐさの指定（うなずきやお辞儀など）や立ち位置の変更
- ・別途撮影した画像や動画、CG等に合成するための透過処理出力、グリーンバック出力機能（任意の背景で動画作成が可能）
- ・番組構成の変更（情報コンテンツ数や順序の変更が可能）
- ・情報読み上げ途中での画像の切り替え（情報の詳細解説が可能）

バーチャルアナウンサー「沢村 碧」のデザインはキャラクターデザイナーの足立慎吾氏が担当、音声合成エンジンで使用する音声データは声優の寿美菜子氏が担当している。

今後、事業パートナーである株式会社共同通信デジタルを介して、テレビ局やラジオ局などの番組制作やコンテンツ制作会社に提供する予定。

【問い合わせ先】ソニー株式会社

Sony.Pressroom@sony.co.jp

◆キヤノン：欧州で権威のある「EISA アワード」を29年連続で受賞

キヤノンのデジタル一眼レフカメラ2機種と交換レンズ1機種の合計3機種が、欧州で権威のある「写真・映像関連の賞「EISA アワード 2017-2018」の各賞を受賞しました。これにより、キヤノンは29年連続で「EISA アワード」を受賞したことになる。

■「EISA アワード 2017-2018」受賞製品(3件)



EOS 5D Mark IV



EOS 77D
【国内名称：EOS 9000D】



EF16-35 mm f/2.8L III USM
【国内名称：EF16-35 mm F2.8L III USM】

■写真や映像制作の幅広いユーザーのニーズに応える3製品が受賞

今回キヤノンが受賞したのは、約3040万画素の解像力と高速連写・高感度性能を両立したハイアマチュアユーザー向けのデジタル一眼レフカメラ「EOS 5D Mark IV」、カメラボディ上面の表示パネルや2つの電子ダイヤルの搭載により高い操作性を実現した本格志向のエントリーユーザー向けのデジタル一眼レフカメラ「EOS 77D」、画面中心から周辺まで高画質を実現したプロ向けの超広角ズームレンズ「EF16-35 mm f/2.8L III USM」の合計3製品。受賞製品は、写真や映像制作の幅広いユーザーのニーズに応える、優れた製品として評価された。

【問い合わせ先】キヤノン株式会社

TEL:03-5732-8265

◆キヤノン：独自開発のコンタクトイメージセンサーを使用した印刷検査システムを発売 印刷業の業務効率化を実現

近年、印刷業界においては、顧客からの品質要望に応えるための高度な検査だけでなく、全印刷工程での検品業務を自動化することで印刷業務全体の生産性を向上する印刷検査システムのニーズが高まっている。さらに、デジタル印刷によるバリエーションデータの可読検査など新たなニーズも広がってきていると同時に、工程全体に印刷検査システムを導入するためにシステム自体の省スペース化や低価格化が望まれている。

キヤノン・コンポーネンツが新たに開発した CIS は、印刷物などの画像検査に最適化されたユニットで、従来から広く用いられているライセンスカメラに比べて、コンパクトで、高速かつ高解像度の画像読み取りと広視野特性を実現している。検査対象となる印刷物の読み取り幅に合わせて 2 種類のモデルから選択が可能で、さまざまな印刷工程の画像検査に対応できる。

キヤノン PPS は、この CIS にキヤノン IT ソリューションズ株式会社が販売する Matrox 社の フレームグラバードをはじめとする画像処理関連製品や画像処理ソフトを組み合わせ、印刷検査システムを構築し、お客様に最適なシステムの提案を行う。

印刷時の汚れや乱丁などの検査だけでなく、印刷の前工程や加工・丁合・封入などの後工程を含め、従来は人の目視で確認していたさまざまな検査作業を自動化できるため、業務の効率化を実現する。また、バーコードや OCR 文字読み取りも可能で、定型フォームの印刷内容を検査することも可能。

キヤノン PPS は、本システムをオセ連帳プリンターに実装しオプション検査装置として販売するほか、お客様の既設の設備向けに提案していく。

【問い合わせ先】 キヤノンプロダクトプリンティング株式会社
TEL:03-6719-9642

◆ティアック：ドイツ beyerdynamic 社 ケーブル着脱式ヘッドホンに接続可能な 2.5mm 4 極バランスケーブル『B CABLE 2.5MM』を新発売

『B CABLE 2.5MM』は、beyerdynamic の着脱式構造を持つヘッドホンに接続可能な 2.5mm 4 極バランスケーブル。導体には優れた信号伝送を実現する、高純度無酸素銅 7N OCC 線を採用した。また、アウタージャケットには、外部ノイズに強く肌触りの良いテキスタイルコーティング（織布被覆）が施され、ファーストクラスのリスニングを提供する。

【仕様】

- 導体：高純度無酸素銅 7N OCC 線
- ケーブル長：1.4m/ 両出しストレート



- コネクター：2.5mm4 極プラグ（金メッキ）、バランス
- ピンアサイン：Tip 1:R-, Ring 1:R+, Ring 2:L+, Sleeve:L-
- 質量：44g
- 対応機種：T 1 2nd Generation, T 5 p 2nd Generation, AMIRON HOME

【問い合わせ先】 ティアック株式会社
TEL:0570-000-809

◆朋栄：フレームレートコンバータ InSync MCC-4K 出荷開始

株式会社朋栄は、フレームレートコンバータ InSync MCC-4K の出荷を開始した。MCC-4K は、InSync Technology Ltd.(本社：英ハンプシャー州ピータースフィールド、www.insync.tv)にて開発され、今年 4 月に開催された 2017 NAB Show の朋栄ブースにおいて初公開された。同製品は今後、InSync 社と朋栄の合併会社である InSync Technology Products 社の製品として、弊社を通じてワールドワイドに独占供給される。

MCC-4K は、HD/3G/4K UHD 信号における高品質なフレームレート変換と映像フォーマット変換を提供する。この新しい MCC-4K を、英国レンタル機材業者 Galaxy & Light Power が初導入した。同社最高経営責任者のアンディ・グラント氏は、導入について次のように話している。

「この数ヶ月間、4K 変換に関する問い合わせが増えてきていました。MCC-4K は、高品質なパフォーマンスと多種多様な機能を持っており、4K フレームレート変換に対応した製品を選定する際に最適な製品として候補に挙がりました。今後、ヨーロッパや北米で行われるサッカーやホッケーなど、国際的な 4K スポーツ制作に活用される予定です」

MCC-4K は、HD/3G/UHD における 23.98/60 の各種フレームレートの信号を異なるフレームレートに変換でき、入力された映像フォーマットは自動認識する。スポーツやコンサート、ニュース速報など、さまざまなフレームレートで国際的に配信されるようなライブ制作に最適な製品。UHD と HD のサイマル出力にも対応しており、HD/3G コンテンツ制作と UHD コンテンツ制作を同時に行う場合にも最適なソリューションとなっている。MCC-4K は、クアッドリンク 3G 接続における 2SI(2-Sample Interleave)/SQD(Square Division)のマッピング変換や、シングルリンクの 6G/12G-SDI 接続、SFP 光接続をサポートする。HDR にも対応しており、PQ や HLG、S-Log 3、Canon Log 2、SDR や他のログカーブのダイナミックレンジ変換もサポートします。さらに、ITU-R BT.709 と ITU-R BT.2020 の色域変換も提供される。

前出のグラント氏は、「私たちは、HD フレームレートコンバータ FRC-7000 の最初の購入者の一社となって以来、10 年以上にわたって朋栄と一緒に仕事をしてきました。朋栄が提供するサービスの質とサポートには、いつも満足しています。」とコメントした。

フレームレートコンバータ MCC-4K は、FRC-9000、FRC-30、UFM-30FRC など朋栄の最新フレームレートコンバータ製品ラインアップの最新モデルとして提供される。FRC シリーズの最近の導入ユーザーには、フレームレートコンバータ UFM-30FRC を 14 台購入した国際的なビデオソリューションサービスプロバイダ The

Switch と、2チャンネルオプション搭載 FRC-9000 を7セット 購入したグローバルメディアサービス会社 MX1 が含まれる。

【問い合わせ先】 株式会社朋栄
TEL:03-3446-3528

◆アスク：AJA 社 12G-SDI 対応のマルチ / デマルチプレクサー 12GM の出荷を開始

AJA 社は新しいコンパクト SDI 転送コンバーター 12GM の出荷を開始した。12GM は全世界の AJA 販売代理店ネットワークを通じてご注文することができる。日本国内の出荷開始は2017年8月25日を予定、税抜定価は126,000円。このマルチ / デマルチプレクサーは、12G-SDI とクアドッド 3G-SDI との相互変換が行える。また 12GM は、4K、UltraHD、2K、HD、SD を扱うワークフローに対応している。12G、6G、3G、1.5G のビットレートで、マルチリンク SDI 信号からシングルリンク SDK 信号への変換と、その逆方向の変換が行える。



【問い合わせ先】 株式会社アスク
TEL:0120-973-562

◆シンタックスジャパン：RME 社 Fireface UFX II ARC、Fireface UFX+ ARC を数量限定でリリース

RME 「Fireface UFX II」 並びに「Fireface UFX+」と RME の TotalMix 用のリモート・コントローラー「ARC USB」をバンドルした「Fireface UFX II ARC」並びに「Fireface UFX+ ARC」を、2017年8月2日より数量限定で発売する。Fireface UFX シリーズは、プロ・オーディオに求められるすべての性能と機能を 1U のコンパクトなボディに集約し、ミキシング、レコーディング、モニタリング環境にシームレスに極めて柔軟に対応する、RME のフラッグシップ・インターフェイス。

Fireface UFX II は、プロ・オーディオに求められるすべての性能と機能を 1U のコンパクトなボディに集約し、最大サンプル・レート 192 kHz、アナログ 12 チャンネル、ADAT 16 チャンネル、AES 2 チャンネル、合計 30 入力 + 30 出力を有す、最強の USB オーディオ・インターフェイス。これらすべてが高いドライバー開発技術により、USB 2 (USB 3 互換) 接続にて超低レイテンシーでコンピューターへと伝送され、高品位な AD/DA コンバーターと最適化されたアナログ回路により、一切の色付けがない澄み切った音を表現。

Fireface UFX+ は、Fireface UFX II の基本性能に、MADI の拡張性を追加し、94 チャンネルの入出力を自由自在にコントロールできる、モンスター級のオーディオインターフェイス。PC とは、Thunderbolt または USB3 での接続となり、スタジオ内だけでなく、ライブレコーディングでもその力を発揮する。

【問い合わせ先】 株式会社シンタックスジャパン
TEL:03-3560-6645 FAX:03-3568-8825

◆エレクトリ：独 SPL社 新製品 HPm を販売開始

HPm は 500 シリーズ・ラックモジュールで SPL Phonitor Matrix を実現するヘッドフォン・モニタリング・アンプ。2つのヘッドフォン出力には、独立した高品質アンプを備えている。ハイエンド・ヘッドフォンアンプ「Phonitor」から派生した Phonitor Matrix は、従来のヘッドフォンアンプのデザインに特有のスーパーステレオ効果を排除。スピーカーのモニタリングが不可能な場合や、スピーカーモニターの代替品として Phonitor Matrix を使用すると、ヘッドフォン・モニタリングでもスピーカーのようなリスニング体験が可能になる。Crossfeed と Speaker Angle の両方を個別に調整して、ヘッドフォンの再生をラウドスピーカーの再生と同様にすることができる。

【問い合わせ先】 株式会社エレクトリ
TEL:03-3530-6181

◆パナソニック：4K 有機EL ビエラ TH-77EZ1000 を発売

パナソニック株式会社は、好評のビエラ史上最高画質を実現した有機EL テレビ「4K ビエラ」[EZ1000]シリーズに、大画面77V型を9月22日より追加発売する。

4K 高解像度コンテンツの普及により、大画面で高画質コンテンツを楽しめる環境が充実してきた。さらに「Ultra HD Premium」の規格化など映像技術の進化に伴い、色域やダイナミックレンジが広い、高精細な映像コンテンツの拡充も進んでいる。これに伴い解像感のみならず微妙な色の違いや明暗差を含めた総合的に高精度な表示能力が求められている。自発光方式の有機EL では、画素一つ一つが発光するため、画面サイズが大きくなっても、画面の隅から隅まで最適明るさで映像を描き出すことができます。くわえて、有機EL パネルの性能を最大限に引き出す新・画質処理エンジンを組み合わせた「ヘキサクロマドライブPLUS」により、ビエラ史上最高画質を実現した。

さらにハイファイオーディオ「テクニクス」開発チームとともにチューニングした高音質で最大出力80Wの新しいサウンドシステムを搭載。高画質大画面に相応しいサウンドも兼ね備えた。

<特長>

1. 「ヘキサクロマドライブPLUS」によるビエラ史上最高画質

- (1)引き締まった黒を実現する、「有機EL パネル」
- (2)暗部から明部まで階調性豊かに再現
- (3)業務用マスターモニターに極めて近い色再現性「 $\Delta E = 0$ 」
- (4)3D-LUT (ルックアップテーブル)の精度を高め、低輝度域でも忠実な色再現
- (5)16Bit 相当のリニアリティ補正で暗部も滑らかに再生する「暗部階調スムーサー」
- (6)漆黒の表現力を活かしきる「ブラックフィルター」

2. 総合出力80W。「Tuned by Technics」の卓越したサウンド

- (1)テクニクス開発陣とともにチューニングした、臨場感あふれるサウンド
- (2)薄い本体から1本でつながったシステムスピーカー

3. 薄さ8.4mm (最薄部)。360°どこから見ても美しいデザイン [ART & INTERIOR]

【問い合わせ先】 ビエラご相談窓口 (受付9時から20時)
フリーダイヤル 0120-878-981